令和 8 年 11 月 13 日

各　　位

のと共栄信用金庫

令和 8 年度上半期業績を公表
――　本業益が合併後最高益　――

のと共栄信用金庫（七尾市／鰀目孝和理事長）は 13 日、令和 8 年度の上半期仮決算を公表しました。

政策金利の引上げにともない、資金運用利回りが上昇したことにより資金利益が改善し、本業益を示すコア業務純益が、2003 年の合併後で最高益となりました。

また、復興が進んだことによる貸倒引当金の戻し入れもあり、経常収益、経常利益、純利益も共に合併後最高となりました。

預金残高は、前期末比 40 億 4,100 万円（1.18%）増加し、3,451 億 9,400 万円となりました。

金利上乗せ商品の預入れが好調に推移したことから、法人預金を中心に増加したものの、個人向け国債へのシフト（21 億 8,000 万円）や相続預金の流失（9 億 3,300 万円）等により、個人預金は減少しました。なお、地公体預金は 28 億 4,500 万円（19.22%）増加しました。

貸出金残高は、前期末比 46 億 7300 万円（2.43%）増加し、1,964 億 7,100 万円となりました。

復興に向けた設備資金が増加したものの、短期運転資金の返済が進んだことから、事業資金は減少しました。一方で地方公共団体の復興資金需要が旺盛であったことから、地公体向け融資が 62 億 7,400 万円（14.96%）増加しました。

不良債権額は、前期末比 7 億 5,900 万円（4.76%）減少し 151 億 6,900 万円に、不良債権比率も 0.57ﾎﾟｲﾝﾄ改善し 7.58%となりました。

自己資本比率は、前期末比 1.16ﾎﾟｲﾝﾄ上昇し 21.69%となりました。

なお通期においても、経常収益およびコア業務純益は合併後の最高益を見込んでいます。

	経常収益	コア業務純益	経常利益	純利益
2026 年 中間期	3,316 (22.35%)	758 (33.46%)	832 (89.27%)	720 (121.31%)
2026 年 通期	6,390 (9.75%)	1,666 (21.69%)	855 (11.03%)	630 (24.50%)

金額：百万円、カッコ内は前年同期比：%、2026 年通期は予測

以　上